2011年6月23日（木）
通販新聞　第1323号 7頁 掲載

Zoom in

レムトス 自動で住所ミスを訂正
従量課金モデルで提供

住所辞書の開発・販売などを手がけるレムトス（本社・東京都葛飾区、金子明代表取締役）はこのほど、顧客情報の住所を自動でクリーニングするシステムの販売を開始した。自社の住所辞書データを活用するもので、変換エンジンが住所の入力ミスを自動的に訂正する。ネット販売事業者などを対象に従量課金モデルで展開。初年度は5000万円程度の売り上げを目指している。

サービス名は「漢帝住所クリーニングシステム Z版」。独自に構築した、約56万件の住所を収容している住所辞書データベースを活用。ウェブ上などで顧客が入力ミスした住所を、搭載する「Z変換エンジン」が自動で訂正する。「90％は訂正できる」（レムトス・金子明代表取締役）という。住所辞書の情報は、独自に調査情報を収集して毎月更新する仕組みだ。

同社では、ネット販売事業者などの利用を想定。住所を自動クリーニングすることで、ダイレクトメールや商品の不着・遅延が防げるほか、「住所を修正する余分なコストを商品開発や広告宣伝に回せる」（同）とし、積極的に導入を勧めていく考えだ。

サービスは従量課金モデルで提供。導入する際の基本キットは30万円で、保守・サポートの権利のほか、5万ポイントのデータ処理ポイントが付く。目安としては、5万件の処理で1件あたり2円、100万件で1件1円、250万件で1件0・6円程度。